

頌栄

No. 125

日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



私たちを造り変える聖霊

牧師 清弘 剛生

わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。

(2コリント3・18)

世の中には、「自分を変えたい」「自分は変わりたい」と思っている人、思ったことのある人は少なくないと思います。しかし、それは何のためでしょう。また、どのように変わることを願っているのでしょうか。

聖書は、私たちが変わっていくべき方向を明確に示しています。それは「御子の姿に似たものに」(ローマ8・29)、「主

と同じ姿に」(2コリント3・18)ということです。キリストこそ、まことに神を愛し、人を愛された方です。その姿こそ、私たちが向かうべき方向なのです。

しかし、まことに神を愛し、人を愛する者となり、主と同じ姿となるということは、私たちの努力によって単純に実現され得ることでないことは明らかです。だからこそパウロは、主と同じ姿に「造りかえられていきます」と語るのです。人間はあくまでも受け身です。「これは主の霊の働きによることです」——これは聖霊のお働きなのです。

ここでは「聖霊」があえて

「主の霊」と呼ばれています。それが「主の霊」によるならば、最も重要なのは主とどのような関係にあるか、ということなのでしょう。パウロは、その直前において「主の方に向き直れば」という表現を用いています。「主に向き直る」とは、観念的なことでも、心情的なことではありません。具体的な形をとるのです。それは御言葉と御血である聖餐に与りながら形づくられる生活です。

「私は少しも変わらない」と嘆く必要はありません。主の霊が、私たちを主と同じ姿へと造りかえてくださいます。

それは私たちの努力を超えた、主の救いの御業です。私たちはただ主に向いて、与えられている約束に信頼して、共に歩んでまいりましょう。

(7月年度主題を覚えてささげる礼拝より)

豊かな祝福がありますように

受洗おめでとう



キリスト教との出会い

小川 智弘

60年前には考えられもしない事でした。実家はキリスト教とは縁もゆかりもない極く標準的な仏教徒の家で、親戚にはお寺さんも何軒かあります。家には仏壇もあり神棚もあり、父は毎朝拝んでおりました。

キリスト教との出会いは1971年我々の結婚式の時でした。式の一週間前、突然妻の清子が式はやっぱりキリスト教の教会でしたいと言い出したので、雨の降る中、会社の昼休みの時間に、私の記憶にある唯一の表参道の教会に向かいました。そこは後に知った

のですが、セブンスデイアドベンティストの教会でした。キリスト教にいろいろな会派があることなど全く知りませんでした。プロテスタントとカトリックの違いさえもわからないくらいでしたが、親切な牧師先生で、学びの時間を省いて一週間後に式を挙げて下さいました。二人きりの式です。で、お花や聖歌隊の賛美歌も要らないと言っていたのですが、奥様が生花を先生が聖歌隊の手配をして下さいました。参列者は会社の同僚の証人一人だけでしたが、副牧師先生がこんな素晴らしい結婚式は無かったと褒めて下さいました。

妻清子は神戸の山の中の修道院の隣で育つて来たので、幼な友達にクリスチャンホームのお嬢さんもいてキリスト教には近かったのでしょうか。子供達は皆キリスト教会の幼稚園に入れました。妻はその一つである船橋教会で木下先生のもとで洗礼を受け、クリスチャンとして生きる覚悟を決めました。しかし、私はまだまだ決心がつかず彷徨える子羊でしたし、それで

いいと思っていました。妻や子供達はなかば諦めていたようでした。

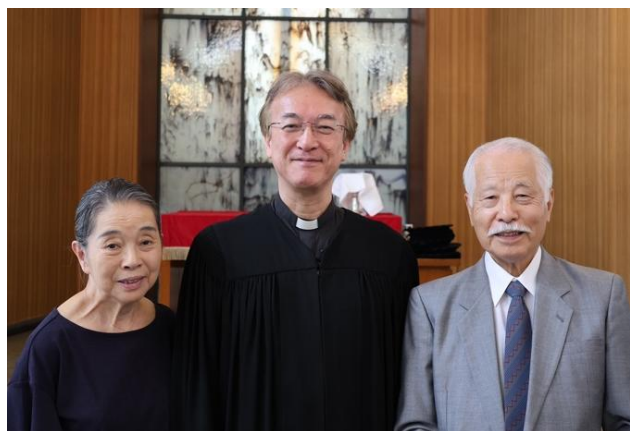
縁あって子供達が頌栄教会に出入りするようになって、1989年頃代沢に転居し妻の清子も頌栄教会に転会しました。しかし、私はまだクリスマスとイースターの礼拝に出席するくらいで教会に帰属するということに抵抗を感じ決心出来ませんでした。子供達三人が洗礼を受け、二人が結婚式を挙げていただいた頌栄教会とは縁の深い教会なのですが、私は相変わらず彷徨える子羊でした。

そんな時、ある日突然に、それは今年の3月14日(土)、明大前の朝顔教会で行われたパイプオルガンの演奏会でバツハの『主よ人の望みの喜びよ』を聴いている時に、はっと気付かされました。私もこの曲が好きで自分でもチェロで弾いたりしています。そんな閃きというか想いが伝わってきたことはありませんでした。この時、それははつきりとして響いてきたのです。はーん雑音に消されてはいけないうの、ただ神の導きに素直に順って

行けばいいだけのことなのだと悟り、キリスト者としての道を歩む決意をし、洗礼を受けるなら清弘先生の他にないと思いお願いし、無事に洗礼を授かることができました。

感謝、感謝です。至らない者ですが微力ながらお手伝いできることがあれば喜んでさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

主の御導きに感謝！



墓前礼拝を捧げて

石川 和幸

5月30日に富士霊園内にある教会墓地で墓前礼拝が行われました。本年はバスツアーがなく、30名が公共交通機関や自家用車を使って参加しました。

当日は天候にも恵まれ、天に召された方々を覚え、主の恵みに感謝するとともに、永遠の命に思いを向けるひとときを持つことができました。

墓前礼拝に続き納骨式が行われました。その後、納骨堂に入る機会が与えられました。納骨堂では、先に天に召された方々に思いを馳せることができました。また、教会墓地が信仰の継承を支える大切な場所の一つであることを感じる機会となりました。

私自身は、父、妻、母が教会墓地に納骨されていることから、いつも特別な思いを持って墓前礼拝を守っています。墓前に立つたびに、それぞれの思い出がよみがえり、主にあつて再

び会う希望が与えられます。

本年も多くの方々と共に、礼拝を守り、祈りをささげることができたことを感謝します。



私が求道者だった頃

求道者の延長線で

多田 ユリカ

「教会」という場所は、私にとって常に身近でありながら、どこか遠い場所でもありました。

クリスチャンの両親のもとに生まれた私は、幼い頃からキリスト教の空気を吸って育ちました。礼拝のお話を聴くのはとても好きだったのですが、当時の私は同世代のお友達とのコミュニケーションが苦手で、そのため日曜学校では周りになじむことができず、教会から次第に足が遠のいてしまいました。

大学時代になり、自分の意志でもう一度教会を探してみようと思いましたが、両親と同じ教会に行くのは少し抵抗があり、近くの教会をいくつか訪ねてみました。

しかし、どの扉を叩いても、格式ばった感じや、同世代の方とのコミュニケーションがネックとなり、若かった私にはなかなかはじめませんでした。

「やはり自分には教会は合わないのかもしれない」——そう思い、再び教会から離れた生活を送るようになりました。

それから十数年経ち、転居先のすぐ近くに深川愛隣保育園があることを知り、(今から思うとそれも神さまの導きだと思うのですが)、子どもたちを通わせることになりました。そして、その保育園の敷地内に「深川愛隣伝道所」があったのです。それが高橋玲二牧師との出会いでした。

かつて私が感じていた教会の堅苦しさはそこには全くなく、その説教は、路傍伝道のようなシンプルで真っ直ぐな力強さに満ちていました。

やがて、奏楽の奉仕をさせていただくようになります。礼拝の音楽に携わることも、私が教会へ向かう喜びの一つでした。神様の言葉に毎週触れるうちに、心が愛で満たされていくのを感じました。そして、神様と共に生きていくと確信し、受洗の恵みにあずかることができたのです。

しかし、私の信仰の旅路はそこで終

わらず、離婚による転居や生活の立て直しなどがあり、教会ジプシーを経て、また足が遠のいてしまいました。

そんな私を三度、神様は呼び戻してくださいました。今度は高齢となった両親の介助という役割を通してでした。頌栄教会へ一緒に通う機会が与えられたのです。そしてそれが現在の私の信仰生活へとつながっています。

私は何度も教会から離れて、迷子のような求道者としての時間を長く過ごしてきました。そのような時期も、すべては神様が私に最もふさわしい場所へと導くための伏線だったのだと思います。

そして、神様は決して手を離さず、人生の要所要所で必ず私を連れ戻してくださいました。その大いなる愛に感謝しつつ、これからの歩みを教会と共に進めていきたいと願っています。同時に、洗礼を受けて何年経っても、私はどこかで「求道者の延長線」にいるように感じています。神さまのことを知りたい、もっと神様に近づきたいという思いは、求道者だったころと変

わらず、むしろ深まっていることを最後に記しておきます。



特別礼拝

ハンドベルの調べと共に

大迫桜子

七月十二日、恵泉女学園高等学校課外ハンドベル「スプリングーズ」をお迎えして特別礼拝「ハンドベルの調べと共に」を主にお捧げしました。

当日は暑い中を多くの方々が来会され感謝でした。前奏「ドナ ノービス パセム」、讃美歌四六一番「主われを愛す」、献金の時は、教会員の田中のぞみ姉の繊細でのびやかな歌と共に「オファートリー」がスプリングーズにより奉鐘され、来会者一同その美しい音色と共に主を賛美しました。いくつものベルを優雅に操り、先生の指揮のもと見事なハーモニーで感動しました。

礼拝の後はミニコンサートをしていただき、さらに多くの方々が教会に来会されました。六曲とアンコール曲が演奏され、それぞれの曲に生徒さんによる説明がありました。美しい曲、軽快な曲、楽しい曲などバラエティーに富んだ選曲で最後は讃美歌が演奏

され、天使が舞い降りてきたような世界に浸るひと時でした。

また、生徒さんたちは前日と当日の朝のリハーサル、本番の捧鐘の時は真剣にハンドベルに向き合う姿があり、休憩や懇親会では明るく元気で礼儀正しくフレンドリーできらきらしていました。私たちもパワーをいただき幸せな気分になりました。

スプリングーズの皆様、ご指導されている先生方に素晴らしい演奏をしていただき、感謝申し上げます。





4月12日証し会

証し、自分が神を信じて得た恵みを写真を紹介しながらお話させていただきます。1枚目の写真は、現在の頌栄教会が建てられた時の写真で父、三嶋幸蔵のアルバムで見つけ、父はこの地で受洗したことを思い、つながっていることを感謝しております。

2枚目の写真は、富士霊園の墓前で家族と撮影したもので、祖父母や父、教会員の皆様を墓前礼拝するときに、主の導きにいつも感謝しています。

3枚目の写真は、1984年の創立110周年記念礼拝で、生前の父も映っており、教会がこれからも繋がっていきけるよう、私もできることをしていきたいと思っています。

4枚目の写真は、金沢の野町教会創立25周年記念、昭和14年のもので、

これは祖父佐藤喜一のアルバムで見つけ、祖父の脇に当時4歳の母、身耶子が立っており、主の恵みに感謝です。5枚目の写真は、昭和31年の父と母の結婚式の写真で、頌栄教会での出会いが、なければ私もここにいないので、奇跡を感じております。

6枚目の写真は、高井戸教会のクリスマス賛美礼拝で私が聖歌隊の指揮をして、後方には内藤牧師が写っており、1980年に洗礼を受けた高井戸出の教会生活にも感謝しております。

7枚目の写真は、祖母の佐藤とし子、そして笠井先生が葦崎の甘利山で撮影されたもので、家庭集会で大変お世話になり、まことに感謝です。

8枚目の写真は、現在の一世代前の頌栄教会の建物を葦崎に移築させていただいたもので、私が小学生の時は北海道から夏休みに祖父母のところに行くのが、とても楽しみでした。

9枚目は、2006年に葦崎の家庭集会で、清弘先生に来ていただいた時のもので、同年天に召された幸蔵と別れ、一人暮らしとなった母も、励まされた

されたことであろうと、感謝です。

最後の写真は、40年前の頌栄教会前の集会案内と階段に立つ母と孫の写真です。主の恵み、導きに深く感謝して、私の証しとさせていただきます。

※本文中の「写真」は証し会で紹介されたもので、最後の写真のみ掲載しています。



5・6・7月の教会学校

児童部会



いつも教会学校のためにお祈りくださり、ありがとうございます。

幼児クラスの子どもたちは、お母さんと一緒に礼拝に出席することや、教会のお友だちにも慣れてきています。乳幼児連れの親子が安心して過ごせるように、引き続き温かいご配慮をお願いいたします。

小学生クラスでは、礼拝プリントに「ビンゴ」を取り入れています。自分で選んだ9つの言葉をマスに入れ、説教の中でその言葉が出てきたら○を付けるという方式です。子どもたちが説教に意識を向けられるようにという工夫です。

中高生クラスでは、6月7日に清弘先生から「祈り―ひとりで祈ること―」について学びました。学校生活で直面することについても、天のお父さまにお話ししながら歩むことが大切であることも学びました。

成人クラスでは、昨年4月より始め

た出エジプト記の学びを終えました。聖書が今も私たちに語りかけていることを知り、感慨深かったそうです。6月からはレビ記を学んでいます。

6月14日の花の日・子どもの日には、「みんなで遊ぼう！ 頌栄教会」というイベントを行いました。これは異世代交流を目的としたレクリエーションとランチ会で、参加者は43名でした。昨年度の児童部会の話し合いの中で、教会の子どもたちが信仰を養われつつ育つていくためには、様々な世代の教会員との交わりが大切であるということを確認しました。そして、先ずは楽しく知り合うことから始めようとの思いでこのイベントを開催しました。

レクリエーションでは2つのゲームをしました。ひとつ目は「ペア探し」で、自分の背中に貼られた言葉とペアになる言葉が背中に貼られている相手を見つけたというものです。聖書や教会に関する言葉で、それぞれペアになる言葉なのですが、全員無事にペアになることができました。二つ目は

「わたしは誰でしょう」で、聖書の人物になりきった3名がそれぞれジェスチャーでその人物を表現し、大いに盛り上がりました。続くランチ会では、ジャージャー麺を皆でいただきました。同じテーブルのメンバーの「共通点探し」をして会話が弾みました。

全体を通して、大人も子どもも良い交わりを持つことができたのではないかと思います。ご参加・ご協力くださった皆さまに、何よりこの交わりを祝福してくださった神さまに感謝いたします。





秋の特別礼拝

(詳しくは案内チラシをご覧ください。)

9月13日(日)

ハンドベルの調べと共に

10:30 特別礼拝

説教「神の祝福を分かち合う生き方」

11:50 ミニコンサート

〔奉鐘〕ハンドベルクワイア ALPHA

10月4日

世界宣教礼拝&となりびとチャレンジ

10:30 世界宣教礼拝

説教「神を求めさせるために」

11:50 世界宣教子ども集会

13:00 となりびとチャレンジ

〔講師〕佐味^{さみ} 湖幸^{こゆき} 宣教師

10月4日(日) 世界聖餐日・世界宣教の日
 11月1日(日) 召天者記念礼拝
 11月8日(日) 子ども祝福礼拝
 11月22日(日) 収穫感謝・謝恩日
 11月29日(日) 待降節(アドベント) 第一